

3. 子どもにかかる費用

アメリカでは、1960年以來、Department of Agriculture によって、子どもが生まれてから17歳になるまでの間、子どもにかかるコストの推定されている。ここでは、1999年における夫妻およびひとり親家庭についての報告を要約する。

夫妻家族については、3つの収入層、ひとり親家族については、2つの層について求めた。物価や消費パターンの違いをある程度調整するために、夫妻家族については、西、北東、南、中西部の4地域の都市部および田舎部およびアメリカ全国の計算をした。1人親家族については、数が少ないためサンプルサイズの制限があったため、アメリカ全体についてのみ求めた。子どもにかかる費用は、住宅、食費、交通費、衣服、医療費、保育と教育、その他について求めた。

地域の区切り方は次の通りである。

- ・西部：アラスカ、アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、ハワイ、アイダホ、モンタナ、ニューメキシコ、オレゴン、ユタ、ワシントン州
- ・北東部：コネティカット、メイン、マサチューセッツ、ニューハンプシャー、ニュージャージー、ニューヨーク、ペンシルバニア、ロードアイランド、バーモント
- ・南部：アラバマ、アーカンサス、デラウェア、コロンビア地区、フロリダ、ジョージア、ケンタッキー、ルイジアナ、メリーランド、ミシシッピ、ノースカロライナ、サウスカロライナ、テネシー、テキサス、バージニア、ウエストバージニア
- ・中西部の州：イリノイ、インディアナ、アイオワ、カンサス、ミシガン、ミネソタ、ミズーリ、ネブラスカ、ノースダコタ、オハイオ、サウスダコタ、ウイスコンシンが含まれる。
- ・田舎部：Metropolitan Statistical Area 外の人口 2500 人未満の地域。

このデータは、1990-92年の消費者調査（面接調査の部分）に基づき、夫妻および一人親家族における子育てコストを、消費者インデックスを利用して1999年のドル値で計算したものである。Bureau of labor statistics によるこの調査は、全国レベルで消費に関する最も総合的なデータである。子育てに関わる出費の計算は、17歳以下の子どもが最低一人いること、子どもの数が6人以下であること、他の親戚やその他の者が同居していないこと、収入に関する情報を全て報告していること、条件を満たした夫妻家族12850世帯および一人親家族3395世帯を選択し、計算した。

世帯と子どもにのみかかる費用は、収入レベル、家族の人数、末子年齢をコントロールし、多変量解析を行なって求めた。ふたり親家族の平均である2人の子どもがいる家庭を選択した。子どもの年齢は、0～2歳、3～5歳、6～8歳、9～11歳、12～14歳、15～17歳に分け、それぞれについて計算した。

また、費用の区分は次の通りである。

- ・住居費：ローン返済の利子分、固定資産税、家賃、維持費、修繕費、保険）光熱費（ガス、電気、燃料、電話、水道）、家具や家財道具（家具、床、電気製品等）（住宅ローン返済の借入金分の返済は、貯蓄に分類されるため、含まれていない。）
- ・食費：食料品、酒類をのぞく飲料、食料品店、コンビニエンスストア、専門店で購入し

- たもの。フードスタンプによって購入した分、外食、学校給食など
- ・交通費：新車、中古車購入にかかった総費用、ガソリン、維持費、修理費、保険、公共の交通機関の利用費
 - ・衣服費：子どものもの（オムツ、シャツ、ズボン、洋服、スーツ、靴、クリーニング、修繕費、その収納費）
 - ・医療費：保険でカバーされない医療費、処方箋による医薬品、保険料の自己負担分
 - ・保育及び教育費：デイケアおよび必要品、ベビーシッター費、小学校および高等教育の月謝、本や資料費
 - ・その他：本、娯楽、ケア用品
 - ・ここには含まれない費用：ここで示した費用には、出産前の検診、出産費用は含まれていない。保険なしの場合、平均して普通分娩で 7090 ドル、帝王切開で 11450 ドルである。また 17 歳以上の子どもにかかる主な費用は大学への費用であり、College Board(1999)の統計によると、平均授業料は、3274 ドル、私立大学で 12894 ドル、生活費は公立の大学で 4533 ドル、私立の 4 年生大学で 5224 ドル、2 年制の大学では授業料が公立で 1587 ドル(1998)、私立 4471 ドルであった。そのほかに、(Phoenix Home Life Mutual Insurance Company,) 1996 年の調査によると、50 代の親の 47%は 21 歳以上になっても子どもに経済的援助をしているという結果を示している。これらの出費は考慮されていない。

計算の際、こども用の出費である子どもの服、保育費、教育費は、子どもの数で割ってある。1994 年の food plans of USDA により、食費が計算されている。このプランは全国食品消費調査を基にしており、家族内のひとりひとりについて年齢と世帯収入に応じた食品に費やす割合を求め、それによって、1990-92 年の世帯食費に当てはめ、子どもにかかる食費を計算した。同様に、医療費は、家族一人一人について 1987 年の全国医療費調査の医療費の割合に基づいて計算した。この調査では出費に対して、家族一人一人の医療費が占める割合を出している。その値をやはり 90-92 年の家庭医療費にあてはめ、子ども一人当たりの医療費を計算した。

住居、交通、その他のものについては、このように参考にできる他のデータがない。そのため、USDA では、「ひとりあたり計算法」を使っている。世帯全体の住居費を人数で割っている。(他に、子どものいる世帯といない世帯の差によって計算する方法もあるが、これは問題が多すぎるということがわかっているからである。)交通費については、子どもに関連ない行動は除外して計算してある。

夫妻+子ども 2 人の世帯の子どもにかかる費用の計算結果は、次のとおりである。

1. 子育て費用は、収入レベルによってかなり違っている。子どもの年齢にもよるが、低収入家庭（税込み収入 36800 ドル以下）の場合は 6080～7150 ドル、中収入家庭（税込み収入 36800～61900 ドル）の場合、8450～9530 ドル、高収入家庭（税込み収入 61900 ドル以上）の場合は 12550～13800 ドルであった。
2. 子どもにかかる費用のうち、一番大きく占めているのは住居費である。どの収入レベルでも 33 ～37%を占める。次に大きな割合を占めているのは食費で、子育て費用の

15～20%である。

3. コストは子どもが小さい方が低く、大きい方が高い。これは収入レベルに関わらずみられた傾向である。

3. コストは、西部、北東部、南部の都市部の順に高く、一番低いのは中西部の都市部と田舎部である。

表 III-3-1 はアメリカ全体について計算したものである。この表に示されているのは、子どもが2人いる場合の一番下の子どもにかかるコストであるが、上の子どもについても同額であるため、それぞれの年齢層の子どもにかかるコストを足し合わせれば、子供達にかかる費用が計算できる。子どもが2人いる家族に比べ、子どもが一人の家族については、1.24 をかけ、子どもが3人以上の場合は、合計に 0.77 をかける。実際に子どもが1人、2人、3人の場合の計算を表 III-3-2 に示した。

また、United States Department of Agriculture の協力を得て、1960 年からのデータも入手することができた。(紙面の都合上、表は省略し、それをもとに作成したいくつかの図のみを掲載する。) 図 III-3-1a と図 III-3-1b は、1960 年から 1988 年までの Low Price Level においての子どもにかかる費用全体をしめした。図 III-3-2a 2b は、Moderate Price Level のものである。図 III-3-3 は、Low Price Level の住宅費、図 III-3-4 は、Moderate Price Level の住宅費である。(ただし、High Price level のデータはもともと存在しないのか、あるいは入手不可能なのかはわからない。また、この場合の Price Level の具体的な定義についても、不明である。) グラフをみると、1960 年～1988 年については、どちらの層でも、0 歳から 6 歳未満をみると、1 歳にかかるコストが一番たかく、2-3 歳にかかるコストが一番低い。6 歳から 17 歳では、年齢が高いほど、コストも高い。また、16 歳～17 歳のコストは、他の年齢のコストに比べ、この期間中、特に 1980 年代になってからの増加が著しい。住宅費だけを見ると、1 歳の子どもにかかる住宅費として計算されているものが、他と比べ、かなり高くなっていることがわかる。これについては、子どもが1歳のときに、住宅の購入などがより頻繁に行なわれている可能性も考えられる。

図 III-3-5～図 III-3-7 は、1989 年～1999 年の費用全体を、低収入層、中収入層、高収入層について示した。図 III-3-8～図 III-3-10 は住宅費、図 III-3-11～図 III-3-13 には保育・教育費、図 III-3-14～図 III-3-16 には食費を示した。1989 年から 1999 年の全体的な傾向は、上記でみられたそれ以前のものに似ている。保育・教育については、1993 年に大きく減り、その後、また増えつつけている(しかし、全体の費用は、それほど大きく影響していない)。食費は、子どもの年齢が高いほど、多くかかっている。

表 III-3-1 夫妻家族における子ども一人あたりの出費（1年間）、米国 1999

子どもの年齢	合計	住居費	食費	交通費	衣料費	医療費	保育・教育	その他
税込み収入：\$36,800未満(平均\$23,000)								
0～2歳	6080	2320	860	730	380	430	760	600
3～5歳	6210	2290	960	700	370	410	860	620
6～8歳	6310	2210	1240	820	410	470	510	650
9～11歳	6330	2000	1480	890	460	510	310	680
12～14歳	7150	2230	1560	1000	770	510	220	860
15～17歳	7050	1800	1680	1350	680	550	360	630
税込み収入：\$36,800-61900(平均\$49000)								
0～2歳	8450	3140	1030	1090	450	560	1250	930
3～5歳	8660	3110	1190	1060	440	530	1380	950
6～8歳	8700	3030	1520	1180	480	610	890	990
9～11歳	8650	2820	1790	1250	530	660	580	1020
12～14歳	9390	3050	1800	1360	900	670	420	1190
15～17歳	9530	2620	2000	1720	800	700	730	960
税込み収入：\$61900以上(平均\$92,700)								
0～2歳	12550	4990	1370	1520	590	640	1880	1560
3～5歳	12840	4960	1550	1500	580	620	2050	1580
6～8歳	12710	4880	1870	1610	630	700	1410	1610
9～11歳	12600	4670	2170	1680	690	760	750	1820
12～14歳	13450	4900	2280	1800	1140	760	750	1820
15～17歳	13800	4470	2400	2180	1030	800	1330	1590

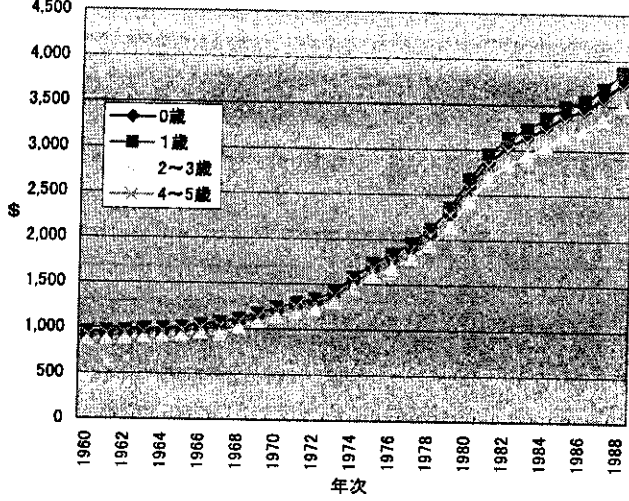
表 III-3-2 子どもが1人、2人あるいは3人いる夫妻家族の子どもにかかる費用の計算例
(1999年度の年収が36,800ドルから61,900ドルの家族)

子どもが一人の家族 子どもの年齢		子どもに関わる出費 (年間)
0-2		\$10,480=(8,450 x1.24)
3-5		\$10,740=(8,660 x1.24)
6-8		\$10,790=(8,700 x1.24)
9-11		\$10,730=(8,650 x1.24)
12-14		\$11,640=(9,390 x1.24)
15-17		\$11,820=(9,530 x1.24)
子どもが2人の家族 末子の年齢	他の子どもの年齢	子どもに関わる出費 (年間)
0-2	16	\$17,980=(\$8,450 + \$9,530)
3-5	16	\$18,190=(8,660 + 9,530)
6-8	16	\$18,230=(8,700 + 9,530)
9-11	16	\$18,180(8,650+ 9,530)
12-14	16	\$18,920=(9,390 + 9,530)
15	16	\$19,060=(9,530 + 9,530)
子どもが3人の家族 末子の年齢	他の子どもの年齢	子どもに関わる出費 (年間)
0-2	13, 16	\$21,070=[(8,450 + 9,390 +9, 530) x 0.77]
3-5	13, 16	\$21,240=[(8,660 + 9,390 +9, 530) x 0.77]
6-8	13, 16	\$20,840=[(8,700 + 9,390 +9, 530) x 0.77]
9-11	13, 16	\$21,230=[(8,650 + 9,390 +9, 530) x 0.77]
12	13, 16	\$21,800=[(9,390 + 9,390 +9, 530) x 0.77]

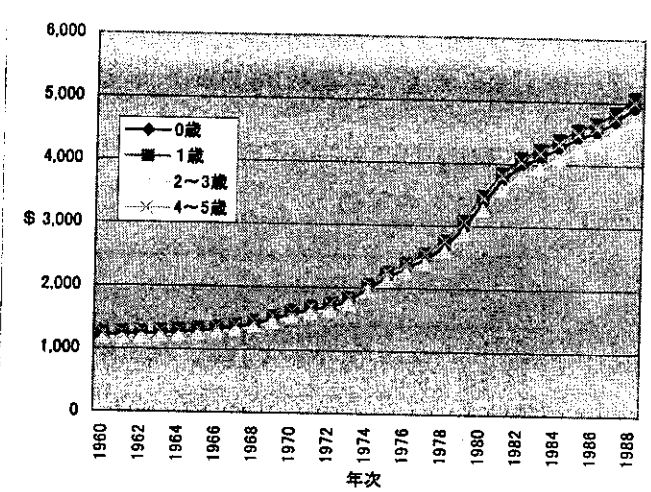
参考文献

United States Department of Agriculture, 1999. Expenditures on Children by Families, 1999 Annual Report. Misc. Publication Number 1528-1998

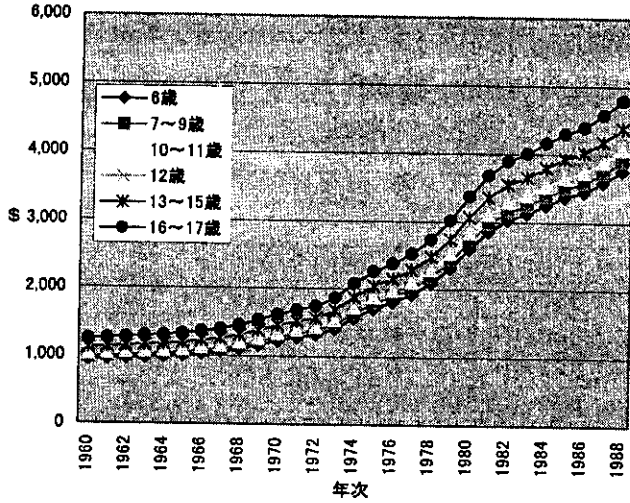
図III-3-1a 子どもにかかる費用—全体(Low Price Level)



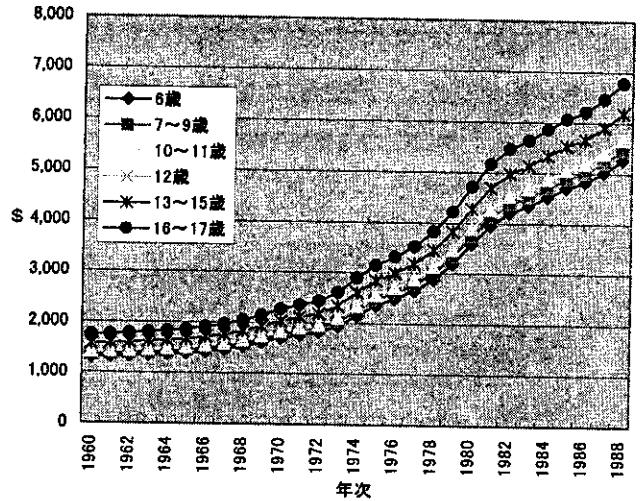
図III-3-2a 子どもにかかる費用—全体(Moderate Price Level)



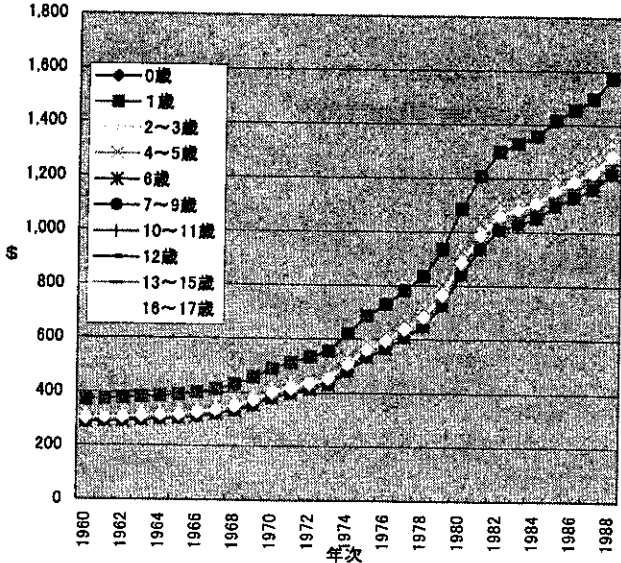
図III-3-1b 子どもにかかる費用—全体(Low Price Level)



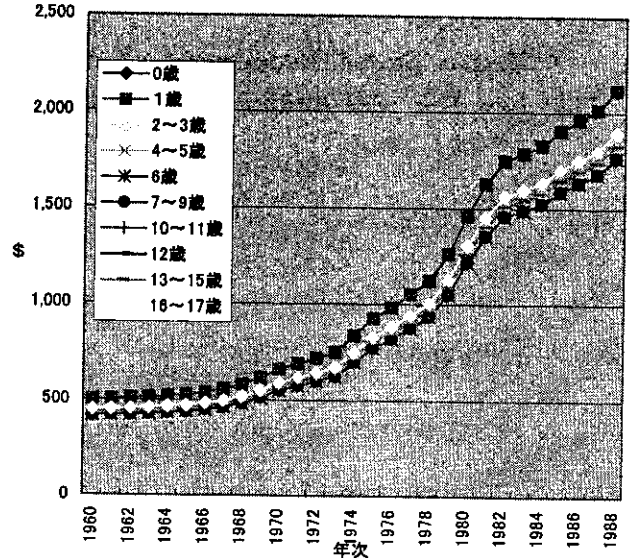
図III-3-2b 子どもにかかる費用—全体(Moderate Price Level)



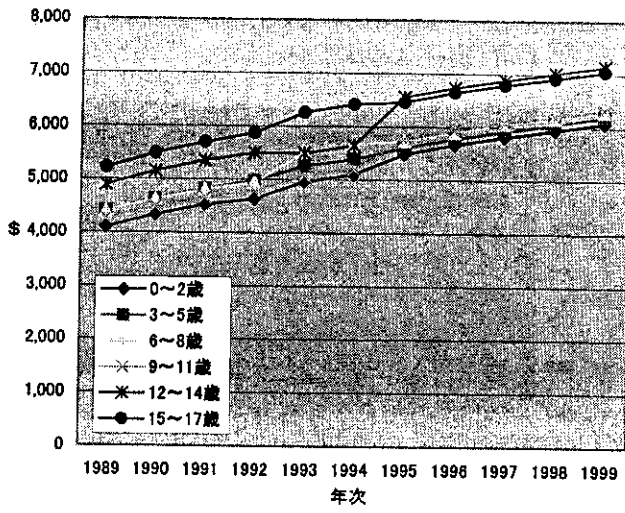
図III-3-3 子どもにかかる費用—住宅(Low Price Level)



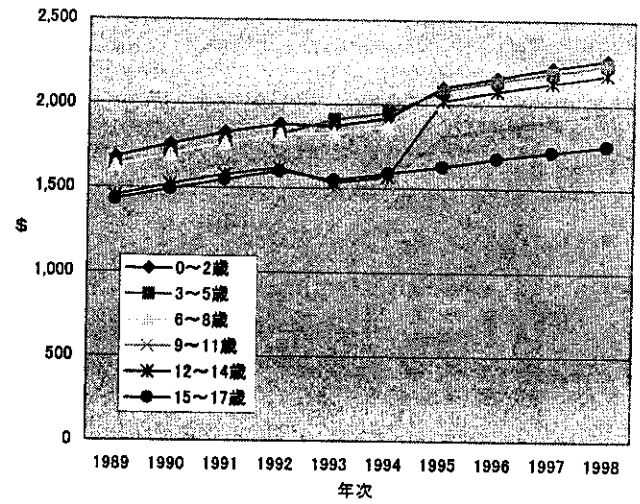
図III-3-4 子どもにかかる費用—住宅(Moderate Price Level)



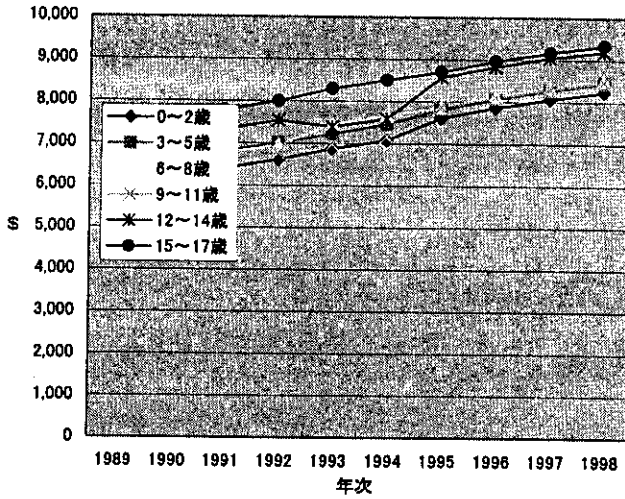
図Ⅲ-3-5 子どもにかかる費用—全体(低収入層)



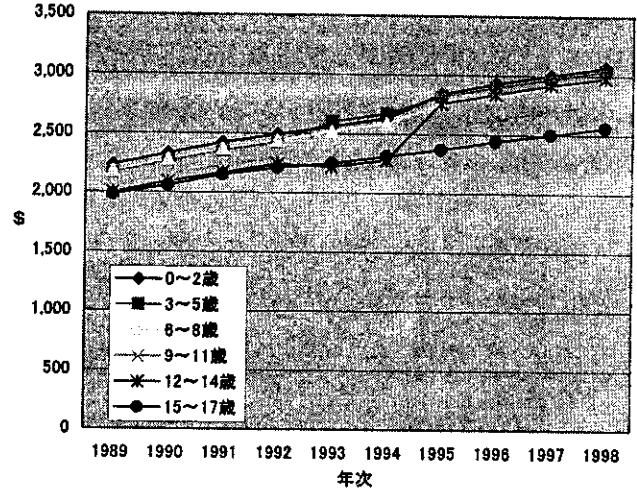
図Ⅲ-3-8 子どもにかかる費用—住宅(低収入層)



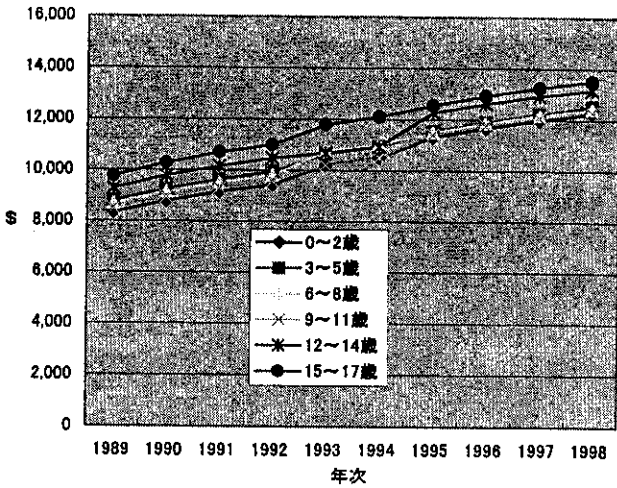
図Ⅲ-3-6 子どもにかかる費用—全体(中収入層)



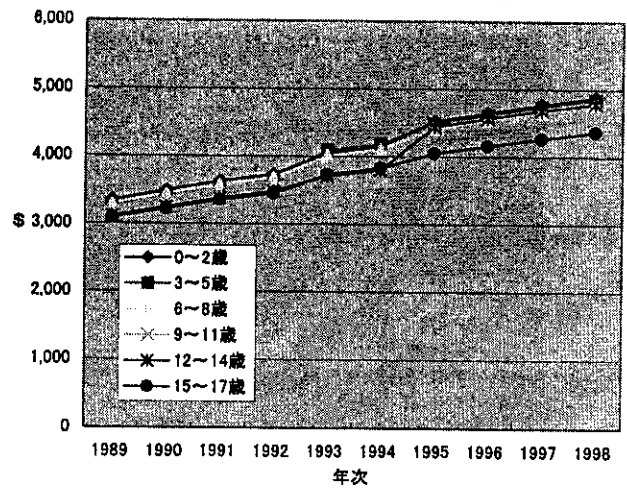
図Ⅲ-3-9 子どもにかかる費用—住宅(中収入層)



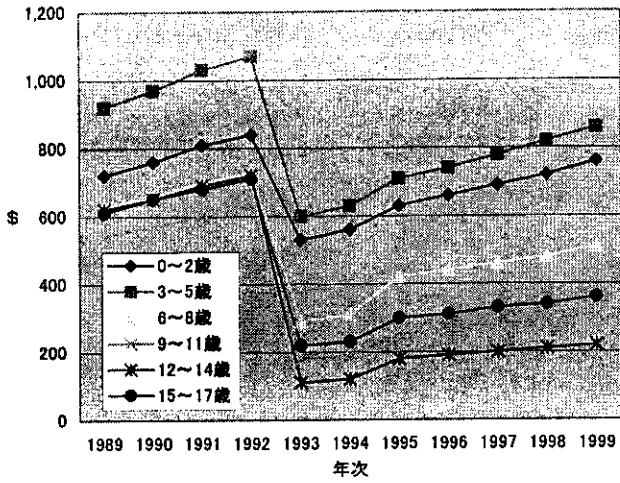
図Ⅲ-3-7 子どもにかかる費用—全体(高収入層)



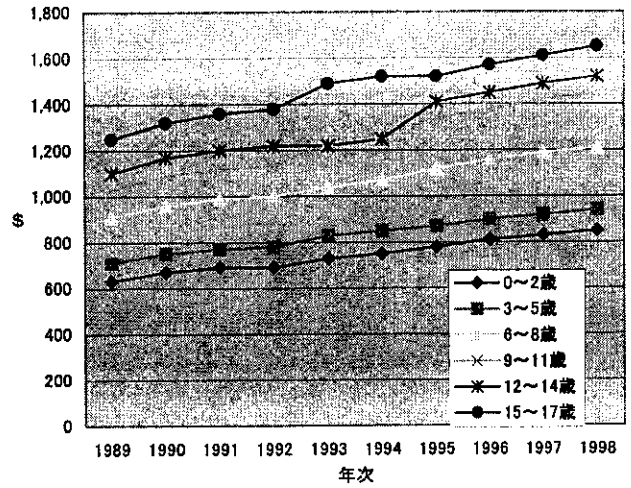
図Ⅲ-3-10 子どもにかかる費用—住宅(高収入層)



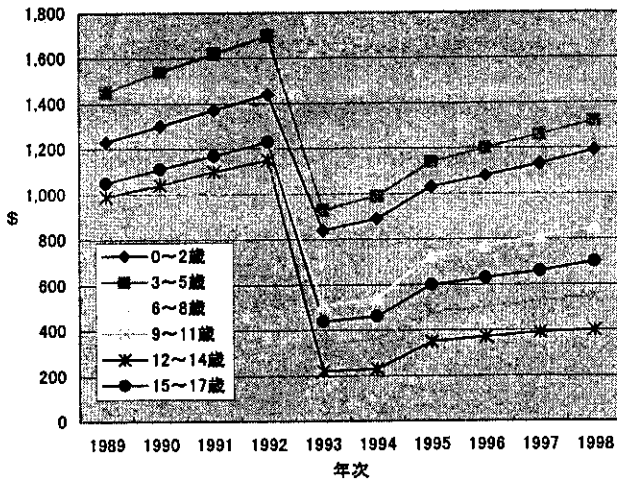
図Ⅲ-3-11 子どもにかかる費用—保育・教育費(低収入層)



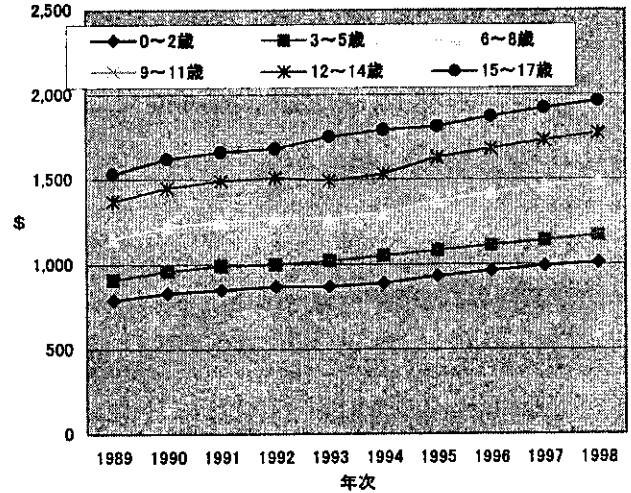
図Ⅲ-3-13 子どもにかかる費用—食費(低収入層)



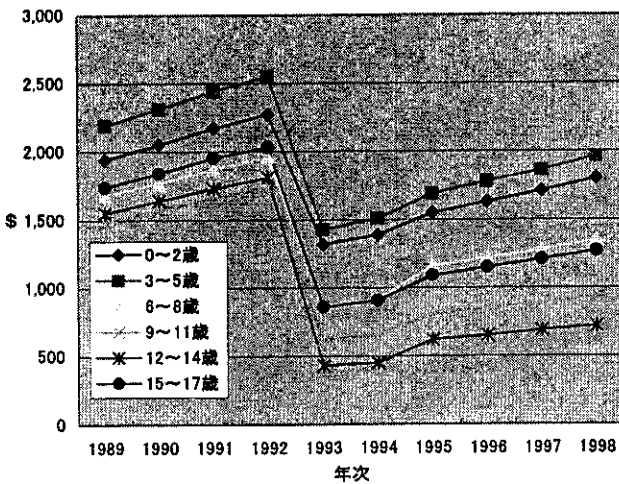
図Ⅲ-3-12 子どもにかかる費用—保育・教育費(中収入層)



図Ⅲ-3-14 子どもにかかる費用—食費(中収入層)



図Ⅲ-3-12 子どもにかかる費用—保育・教育費(高収入層)



図Ⅲ-3-15 子どもにかかる費用—食費(高収入層)

